

憧れとメタ認知

副校長 太巻 美青

先日、とてもうれしいニュースが飛び込んできました。英国ロイヤル・バレエ団の最高位「プリンシパル」に、日本人の平野亮一さんと高田茜さんが昇格したとの記事が、新聞に掲載されたのです。実はこの高田茜さんは、和泉小学校の卒業生なのです。

バレエを習っている子供は、担任からこの記事を紹介され、「私もそうなりたい！」と言いました。遠く漠然としていた憧れが、和泉小学校の先輩のニュースにより、具体的な目標に近づいた瞬間だったのではないのでしょうか。

子供たちには、それぞれの夢に向かって、逞しく成長してほしいと願います。その時に「憧れ」と「メタ認知」が、車の両輪のように必要なのではないかと感じます。

夢に向かう原動力は憧れです。大人になった時の夢、学年が一つ上がった時の夢、夢への距離は様々ありますが、どの夢にも憧れが根底にあります。

そして、夢を目標に、目標を現実に変えるためには、メタ認知が必要です。これは、現在国で進められている学習指導要領の改訂にも関わります。検討の中で、これから必要な資質・能力が3つに整理されています。「①何を知っているか、何ができるか」「②知っていること、できることをどう使うか」「③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」です。③は「メタ認知」に関わります。これは、自分自身を認知することです。メタ認知により、主体的に学習に取り組んだり、自分の思考を客観視したりすることにつながります。

間もなく夏休みを迎えます。学期末には担任より通知表が渡されます。この通知表には、担任が子供たちの素敵なところ、更に頑張してほしいところについて、心を込めて作成しています。長い夏休みは、様々な体験をしたり、じっくり物事に取り組んだりすることができます。自分と向き合い、夢に向かう意欲を高めながら、課題にも挑戦し、また大きくなった子供たちに、9月に会えることを楽しみにしています。

「今年度の研究」

研究主任 川嶋 美武

昨年度まで、本校では「書くこと」を中心にして研究に取り組んできました。その結果、進んで自分の考えを書く子供が増えました。今年度は今までの積み重ねをもとにして低学年は「国語科」、中・高学年は「社会科」の研究を中心に進めていきます。さっそく5月に2年生、6月に5年生と6年生が研究授業を行いました。研究主題は「地域や日本のよさを考えることができる子供の育成」です。研究を通して千代田区や東京都などの地域や日本が行っていることに注目をし、興味・関心をもったり、好きになったりする子供が増えることを期待しています。その上で、資料を読み取り、それをもとにして自分なりに考えて表現できるようにしたいと思います。

「岩井臨海学校」

4年担任 中川 智栄子

4年生にとっては初めての宿泊行事となるのが岩井臨海学校です。進級当初より、自分たちで時間を意識して自主的に活動することや、友達と協力して気持ちよく過ごすことなどに取り組んできました。

海で泳ぐことはもちろん、浜辺でのレクリエーション、すいか割り、ビーチファイヤーなどの様々な楽しい活動を予定しています。一人一人が「時間の意識」「相手意識」を考えて過ごすことが、充実した海での活動につながります。

岩井臨海学校が、有意義で思い出深い臨海学校になり、これから5年生、6年生と進む上での大事な土台となるように、4年生45名が協力して、さらに準備を進めていきます。